

# 東京都地方独立行政法人評価委員会

## 令和5年度第2回試験研究分科会（持ち回り） 議事概要

1. 開催日時：令和5年7月5日（水）から同月6日（木）まで
2. 開催場所：持ち回り開催（ウェブ会議）
3. 出席委員：波多野委員、大橋委員、鈴木委員、武田委員、林委員
4. 議題：地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター令和4年度業務実績評価

### 5. 議事概要：

#### 【評価委員】

- ・地方自治体の公設試として非常によく取り組んでいる。
- ・オーダーメイド型技術支援では、どのような支援が受けられるのか、利用者に具体的なイメージを持っていただくため、事例等の発信内容・方法を充実させていけるとよい。
- ・海外展開はニーズが高まってきている。中小企業の海外への展開を的確に支援してきたという視点から、評価案の中身を充実させていければよい。
- ・産技研が都とともに社会的責任を果たしていることは、研究者たちのモチベーションにつながっている。都の方針と産技研が共に歩んでいることを分かりやすく示せるとよい。
- ・情報発信については、産技研を利用している企業のほか、新しい顧客にどうリーチしていくかが重要。また、産業のあり方が変わる中で、マーケティングを行い、新たな顧客やニーズに対応していくことが重要。ストーリー性のあるメッセージや研究員の顔が見える発信をしていくことが新規顧客の獲得につながる。
- ・都産技研の資産の有効活用という観点から、各支所や食品技術センターにおいて、更なる取組の推進や、成果を積極的に発信していくことを期待する。
- ・都産技研独自の特許を活用して資金獲得につなげていくことが重要。企業等から得た収益を、発明した研究者へ還元していくことがモチベーションアップにもつながり、質の高い研究や人材獲得につながる。また、真に保有すべき知的財産の精査やその活用等について、経営的な視点を取り入れてもらうことを期待する。
- ・SDGsやGHG削減目標の実現に向けて、都産技研という組織が取組んでいることは理解するが、その実現に向けた経営方針や数値目標などが示されていない。都産技研が率先して取り組む姿勢を明確に示していくことで、中小企業の模範となることを期待する。

**【事務局】**

- ・第3回試験研究分科会で、評価委員としての意見を確認していただき、委員としての意見を決定する。
- ・本分科会で頂戴した意見については、第3回試験研究分科会に向け、評価に反映させるよう調整する。